

視 察 報 告

(後半分)

1. 同志社中学校	1
2. 近江八幡市立桐原小学校	9
3. 糸魚川市立糸魚川小学校 ひすいの里総合学校	1 7
4. 長岡市立東中学校	2 5
5. 富山市立豊田小学校	3 3
6. 坂井市立丸岡南中学校	4 1

※ 資料に記載している事項は、現在確認中あるいは調整中の事項を含むため、今後、修正等を行う可能性がある。

1 同志社中学校 (京都府京都市)



学級編制 (2018年4月現在)

1 年	2 年	3 年	計
8学級 292名	8学級 293名	8学級 293名	24学級 878名

教 職 員

副校長	教頭	専任教員	嘱託講師	嘱託司書教諭	専任職員	契約職員
1名	1名	39名 ※左記2名含む	34名	1名	4名	3名

学校教育目標

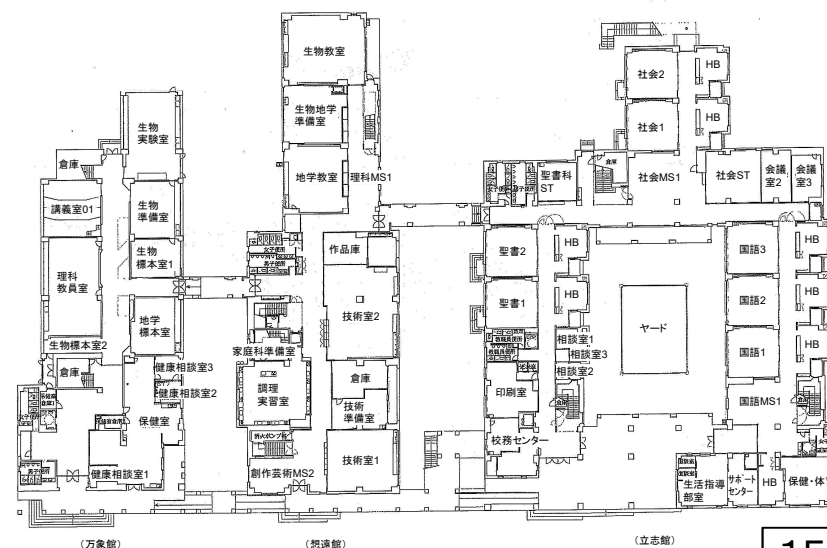
1. キリスト教主義教育を基本として、調和のとれた豊かな人間性を育てる。
2. 基礎学力をすべての生徒に身につけさせる。
3. 思考力と創造力のある学力を身につけさせる。
4. 自主性を育成し、自治活動を育てる。
5. 国際性豊かな人間を育てる。

施設概要

平成22年移転改築

校地総面積：97,893m² 校舎延べ床面積：25,378m²

R C造3階建て（体育館のみ S造1階建て）





▲教科教室（数学）。



▲各教科教室ごとに棚を介してHBを設置。棚には教科関連書籍や資料を配置。



▲HB（ホームベース）。生徒用個人ロッカーと机イスを設置。



▲広々とした廊下。各教科のゾーンごとに教科に即した掲示物が廊下に並ぶ。



▲MS（メディアスペース）：教科ごとのスペース
各教科の教員が思い思いの空間をつくっている。



▲数学MSにある模型。数式を立体模型をつかって解説。



▲数学MSの掲示物。指数関数の増加率が体感的にわかるような展示。



▲図書室。幅広の通路を設け、いつでも生徒が通り抜けできるようにしている。



▲図書室内の閲覧コーナー。全てのテーブルに電源タップを設置。



▲図書室。カウンターも明るく広い。



▲ラーニング・コモンズ。教室の四方にモニターを設置。テーブルごとに少人数での学習が可能。



▲英語の授業ではAIロボットを活用し、発音の練習を行っている。



▲学内に設置された電光掲示板。
当日の予定、時間割、イベント案内
などを表示。



▲技術室の間仕切りとして設置され
た展示ケース。生徒の作品を展示。



▲美術室前の廊下。担当教員が
思い思いの展示を行う。



▲音楽室前のMS。



▲階段状になった音楽室。



▲自然科学棟には至る所に昔の器具
・道具類や剥製、触れる見本を展示。



▲生徒が実際に見て触れて、違いや
仕組みを学ぶことができる。



▲サポートセンターは生徒がリラッ
クスできるように自室のような空間
をつくっている。



▲カフェテリア（食堂）。



▲教室でのお弁当の他、カフェテリア
（食堂）やスクールショップ（コンビ
ニ）で軽食購入など個々の状況に対応。



▲チャペル棟内にある大ホール。
（定員1200名）文化祭前のため、
仮設ステージを設置中。



▲チャペル棟にある小ホール。礼拝
や行事など高校と調整しながら多目
的ホールとして利用（定員400名）。

委員コメント（計画面）

- 小学校から高校までが一つのキャンパスに配置されている。モールと呼ばれる動線の主軸を中心として、ゾーニングは学校種により整然とされており、外観（赤煉瓦）は歴史的で統一性がある。
 - 中・高の共用棟が中学校と高校の中間位置にあり、交流が期待できる。
 - 教科教室型の計画であるが、各ホームベース（ロッカー中心）の前面若しくは隣の教科教室（国語、英語、数学など）を学級活動に使うように設定がされており、学級活動への配慮がされている。
 - 全教室にWi-Fiが設置済みであるため、どの教室でもデジタル教材などICTを活用した授業を同じように行うことができる。タブレット端末は各生徒・家庭が購入し持ち込んでおり、学校は、学校の方針に従い使用ソフト、閲覧範囲の標準を設け運用している。情報システムはオープンソースなものの活用を進めているため、コストを抑えた運営を心掛けている。
 - 教科ステーション（教科ごとの職員室）が各階の関係教科教室周りにあるため、各階で教員の目が届きやすい。
 - ホームベースのロッカーについて、生徒側から、たびたび拡張の要請がある。
-
- 10年前に黒板上にレールを設置し、可動式電子黒板を整備している。また、入力インターフェース及び周辺機器を収納する家具も併せて設置している。
 - 教科教室制の特性を活かし、各教科の教材、資料、生徒の作品等を展示することで、興味関心を高める学習空間が構築されている。
 - スペースに余裕のあるアクティブラーニング教室を新設し、可動式家具、プレゼン用機器等を整備することによって、多様な学習活動が可能となっている。
 - 技術室は、英国のDesign Technologyの教室のように、多様な工具、器具が用意されており、創造的にものづくりができる学習環境となっている。
 - 一人一台の情報端末（iPad）活用のためのWi-Fi環境を効率よく構築している。

委員コメント（運営面）

- 教科の特質や雰囲気を活かした教科センターづくりが実施されており、数学、理科、社会、英語など多くの教科のセンターにおいて教材や作品の展示・掲示が積極的になされている。
- 一人一台タブレットを持っており、生徒の課題や作品も統合してストックし閲覧できることが、掲示スペースの機能を補完している。
- アクティブラーニングの先進的な取組を実施する特別室が設けられ、机の組合せ、椅子の色分けなど様々な学習集団・形態による授業改善が試みられている。
- 入試会場となるため、試験の度に掲示物を撤去する必要がある。このため、教室周りの掲示物については、次第に貼られなくなってきたとのこと。
- 教科教室制を活かし、学習環境を維持することが可能な指導体制、運営体制が構築されている。

委員コメント（その他）

- 各教科の学習コーナーの環境を維持できるのは教員の異動が少ないからかもしれない。

2 近江八幡市立桐原小学校(滋賀県近江八幡市)



学級編成 (2018年5月現在)

1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	なかよし (特別支援)	計
3学級 81名	3学級 86名	3学級 90名	3学級 72名	2学級 69名	3学級 78名	3学級 18名	21学級 494名

職 員

校長	教頭	教務主任	教員	生徒指導	教育相談	通級指導	専科指導	養護教諭	主任事務 主査	事務主事
1名	1名	1名	17名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名

用務員	地域学校共同 本部推進員	県非常勤講師	特別支援教育 支援員	訪問教育 相談員	SSW/ALT/ JET/SCS
1名	1名	3名	2名	1名	各1名

学校教育目標

「心豊かでたくましい桐原っこ」の育成



▲昇降口。



▲昇降口の目の前にはメディアセンターが位置している。大階段で2階の教室につながる。



▲メディアセンター。奥にはPCルームがあり一体的に使用可能。



▲PCルーム。



▲桐原っこホール（多目的ホール）稼働扉の奥は通路を介して音楽室につながっている。全ての扉を開放し音楽室と一体的な使用も可能。



▲多目的室。稼働パネルで自由に空間を区切ることができる。



▲職員室。



▲職員室とつながる印刷室。



▲職員室・印刷室とつながっている教員のためのラウンジ。全ての部屋が校庭に面している。



▲食のテラス。



▲観察創作テラス。テラスによって床の材質やベンチの形が異なる。



▲ふれあいテラス。



▲図工・書写室。天井のポールに作品をかけることができる。



▲共同学習室。図工・書写室と理科室の間に設置され、授業内容に合わせて様々な授業に利用。



▲家庭科室。防災対応を考慮してシンク数や手洗い場を多く設置。



▲理科室。机は可動。



▲2階は普通教室群。オープン型の教室が学年ごとにゾーン分けされている。



▲広々とした廊下は、場面によって扉を開閉して柔軟に利用。



▲廊下の脇にはテラスに面してたまりのスペースが設置されている。



▲体育館アリーナ。床はゴム製。



▲体育館には防災倉庫を整備。



▲太陽光パネル。



▲併設するコミュニティセンター。



▲全面天然芝の校庭。

委員コメント（計画面）

- ・ 小学校の敷地としては広い面積（3.7ha）を確保し、2階建ての校舎と野球とサッカーが同時にプレー出来る校庭を設けている。
 - ・ 校庭を芝生化することで、児童が屋外での活動を活発に行っている。
 - ・ 校庭に全天候型のトラックを設けるなど、校庭での活動に多様性を持たせている。
 - ・ 屋外の学年菜園でコンポストを用いるなど、施設整備面で環境教育が取り込まれている。
 - ・ 特徴のあるサインやアートワークなどが校内各所にあり、空間に優しさを作っている。
 - ・ 近江八幡地域で建物の特徴となっている八幡瓦や屋根型を継承している。
 - ・ 避難施設として段階的に開放可能なゾーニング。1階に特別教室をまとめているため、地域開放も段階的に可能となっている。
 - ・ 2階にまとめられた教室群は、学年を超えた交流を生み出している。
 - ・ 小ホールはランチルームとして、また音楽室の客席としても利用可能で、様々な利用形態に配慮されている。
 - ・ 多目的ホールは、多様に間仕切りが可能で、展示会場や健康診断の検診スペースとして可動間仕切りが利用されている。
 - ・ 学年の3CRに対して1CR分の多目的室が用意されており、実際にも多目的に利用されている。
 - ・ 防災に配慮され色分けされたコンセントが各部屋に配置されている。
-
- ・ 桐原小、学童施設及びコミュニティセンターの複合化が、関係者参画の下で計画・実施されたこと。また、体制などソフト面の整備が伴っていること。
 - ・ 外部開放エリア、学校専用エリアなど、ゾーニングが明快。解放時には、廊下をシャッターで仕切れるなどの工夫もある。
 - ・ 引き戸のあるオープンプランであり、かつ、学年ごとにエリアがまとまっているため、学年全体での授業も実施しやすいなど学習集団設定の自由度が高い。また、2階は廊下を含めた全館空調であるため、夏や冬でも引き戸を開けて授業をしやすい。
 - ・ 特別教室の実験机について、流し部分以外は可動となっており、授業内容に応じて机をアレンジできるよう工夫がなされている。
 - ・ 普通教室の前面廊下に、キャスター付きの児童用ロッカーが多数ゴロゴロと置かれた状況となっている。可動であるため、移動しやすいものの、作付けロッカーがより多く設けられていれば、廊下に多数ゴロゴロ置かれた状況にはなっていなかったと考えられる。

委員コメント（運営面）

- 施設計画時に教職員を含めた「建築会議」を行うことで、運営に配慮された計画となっている。
 - サインやアートワークが、児童の参加を得て計画されている。
 - 芝生化されたグラウンドを地域のボランティアで管理することで年間60万のコストで管理している。
 - 避難所として計画されるだけでなく、設営の訓練を児童と行うなど、防災教育に反映されている。
 - 図書のボランティアによる、季節の展示などが優れている。
 - 理科室や図工室、家庭科室などには作品展示や掲示のスペースが無いように感じられた。
-
- 校舎内の廊下のほぼ全面に（普通教室の引き戸を除く。）、様々な作品や掲示物を張れるように木製ボードが設えてあり、実際に目を引く掲示も何か所か見られた。
 - 図書館貸出ボランティアや、校庭芝刈りの地域への委託など、地域の力を活かした管理・運営が行われていた。
 - 吹き抜け部分や大階段の廻りにおいて、高所に照明器具があったり、高窓があったりしており、電球の交換や窓ガラスの清掃への支障や、地震時の破損・落下への心配といった部分で課題が見られた。
 - 校舎内の四か所ある中庭・テラスに関し、テーブル・椅子は置いてあるものの、活用が十分にはなされていないと見受けられた。

委員コメント（その他）

- 建築計画者の参画が計画内容の深度を深め、サイン計画に対する大阪市立大学の横山先生の研究室による参加が児童に親密感の深さを加えている。

3 糸魚川市立糸魚川小学校、 ひすいの里総合学校

(新潟県糸魚川市)

小、特

公



学級編成（糸魚川小学校）（2018年5月現在）

1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特殊	計
3学級 67名	3学級 74名	2学級 75名	2学級 80名	3学級 79名	2学級 68名	5学級	20学級 443名

学級編成（ひすいの里総合学校）（2018年5月現在）

小学部

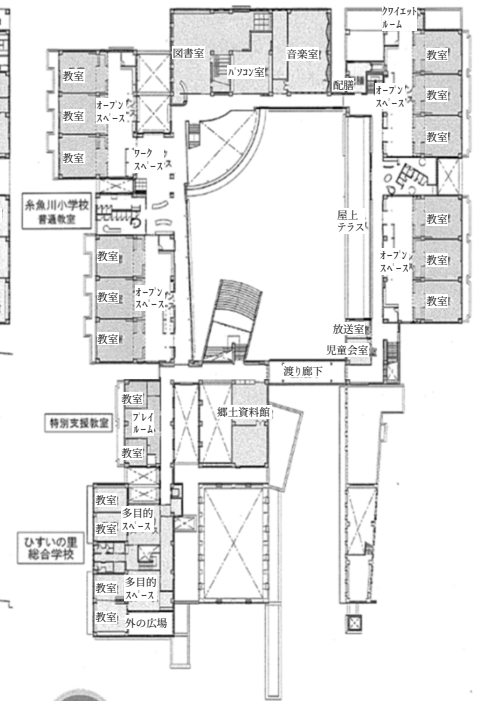
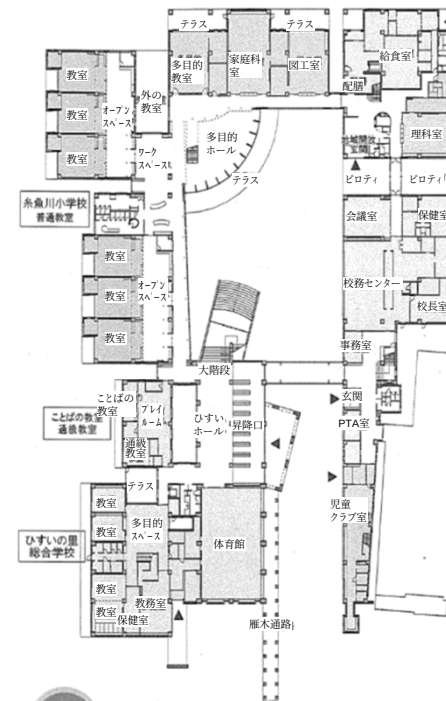
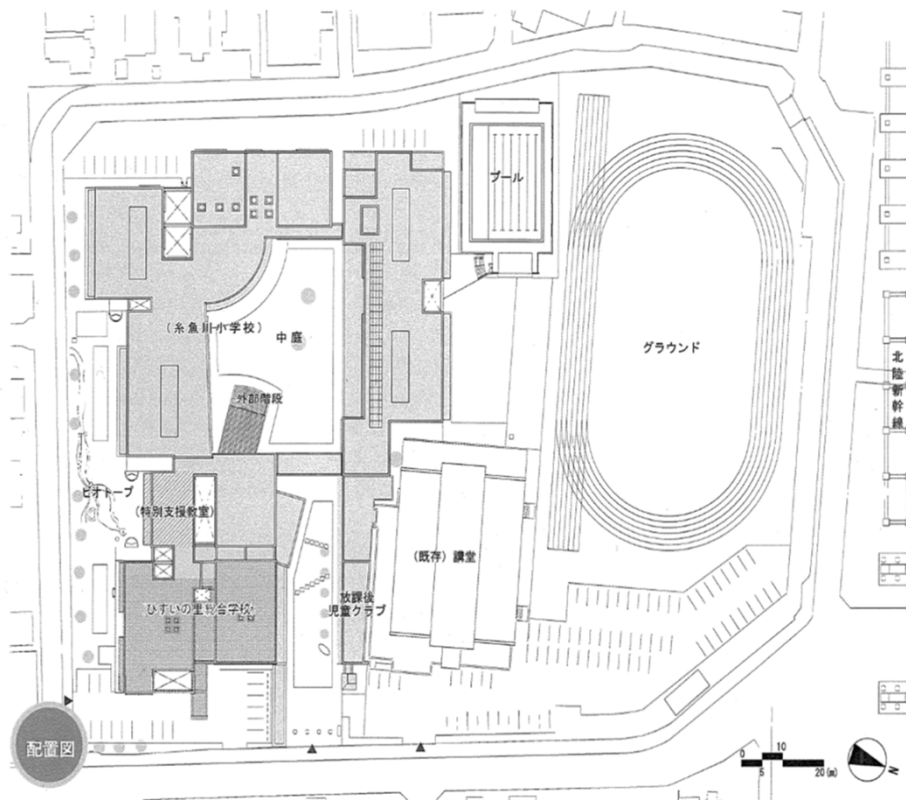
1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計
1学級 2名	1学級 5名	— 1名	1学級 4名	1学級 2名	—	4学級 14名

中学部

1 年	2 年	3 年	計
1学級 3名	1学級 3名	1学級 3名	3学級 9名

施設概要

平成26年築
RC造（一部S造） 地上2階建
延べ9,166㎡





▲普通教室は、廊下との間にロッカースペースをはさんでオープンスタイルとなっている。ロッカースペースが視界から外れることにより教室は整然とした印象。また、このスペースが緩衝スペースの役割を果たし子供たちは授業に集中しやすくなる。



▲教室前には広々としたオープンスペースが広がる。学年ごとに集まることも可能。



▲内装材には木材がふんだんに使用され、柔らかみと潤いを与えている。



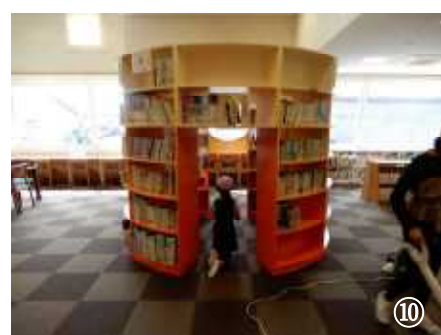
▲腰掛けることができるベンチ。屋上テラスと屋内をつなぐ位置にあり、交流が促進される。



▲体育館（小学校）。



▲図書室。パソコン室と隣接し、アナログ＋デジタルの調べ学習が可能。



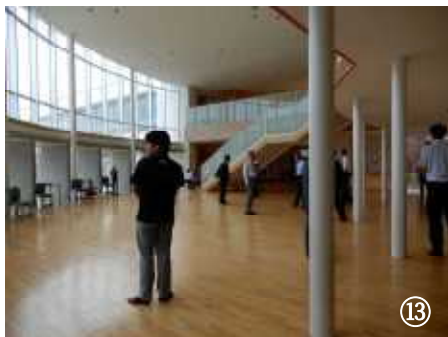
▲図書室内の書庫。探す楽しさを誘発する。



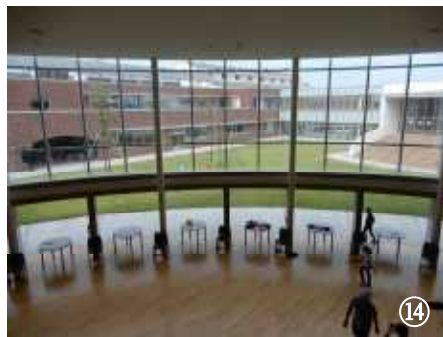
▲図書室内に設けられた畳スペース。



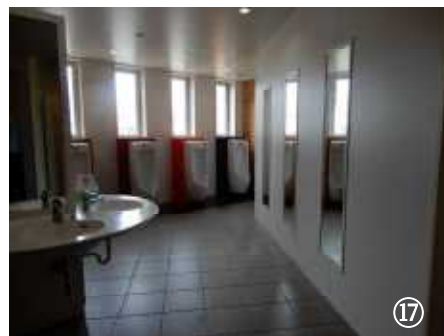
▲多目的スペース（総合学校）。



▲中庭に面した多目的ホール。各種集会やミニコンサート、教員研修会など非常に多目的な使用が可能。また、曲線を描いた建具が外観に変化をもたらしている。



▲小学校と総合学校の交流の場となるアプローチと昇降口。同じ動線・出入口を使用して登校する。インクルーシブ教育の基本姿勢は「つかず離れず」とのこと。



▲カラフルで清潔感あふれるトイレ。



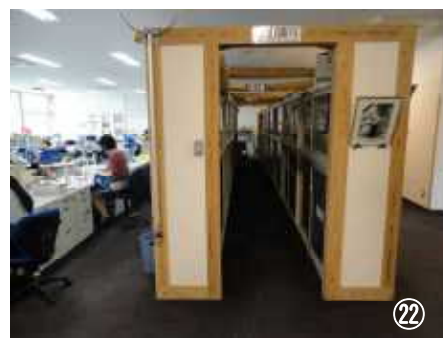
▲しっかりと面積が確保された多目的トイレ。



▲昇降口に隣接する「ひすいホール」。ここも両学校交流の場となる。



▲整然とまとまった校務センター。書棚スペースを分割することで、非常にすっきりとした印象となっている。



▲天然芝の中庭。周囲をかこむ校舎群からの見通しも良く学校のシンボルとなっている。また、奥に見える外部大階段は上部を屋外ステージとして使用することも可能。



委員コメント（計画面）

- 小学校と特別支援学校の合築であり、双方の独立性を維持しながらも一体感のある設計になっている。
- オープンスペースの形態でありながら、各教室との間に児童のロッカー・カバン入れがあり、学級ごとの独立性を保つことができている。
- 回廊式の間取りとなっておりかつ廊下は一直線とは限らず、学年間に洗面所も配置することで各学年の独立性も保たれている。
- 中庭に食い込む形で大階段、多目的ホール、昇降口があり、メリハリのある外観となっている。その反面、外来者入り口がやや小さくわかりにくい。
- 外壁に鉄道車庫を模した煉瓦が使用されており、デザインとともに地域の象徴となっている。
- 余裕のある敷地にひすいホール、多目的ホール、図書館、外部大階段など多様に使える空間が設けられ、地域の活動も含めた様々な活動が展開できる。
- 総合学校は、児童数も少ないが施設面積も少ない。小学校のスペースを使った交流及び共同学習も行われてはいるが、もう少し多目的なスペースが欲しいと感じた。
- 小学校、特別支援学校だけでなく放課後児童クラブや放課後デイサービスなど教育分野と合わせて福祉分野の施設が複合されており、利用者にとっては利用しやすい。各分野が連携協力しやすい姿勢になっていると思われる。

委員コメント（運営面）

- 図書室や廊下等に掲示物が多くあり、華やかな雰囲気を出している。特別教室については、きれいではあるが目新しさは感じられない。
- 総合学校においては、障害の特性に応じた特別支援教育が行われている。しかしながら、糸魚川小学校にも特別支援学級があり、機能および実践上の重なりが感じられる。組織上やむを得ないところもあるが、両校の言う「つかず離れずの関係」は、より近づく関係にすることが設計上可能であると思われる。
- 児童の昇降口から小学校（普通学級、特別支援学級、通級学級）と特別支援学校が一緒に使うようになっており、自然な形で交流できる環境にあり、インクルーシブ教育が推進しやすい環境となっている。

委員コメント（その他）

- 新幹線が近くを通っているにもかかわらず、騒音についてはまったく気にならなかった。
- 総合学校にスクールバスが無いようだが、通学保障は大丈夫なのか。

4 長岡市立東中学校（新潟県長岡市）



学級編成 （2018年4月現在）

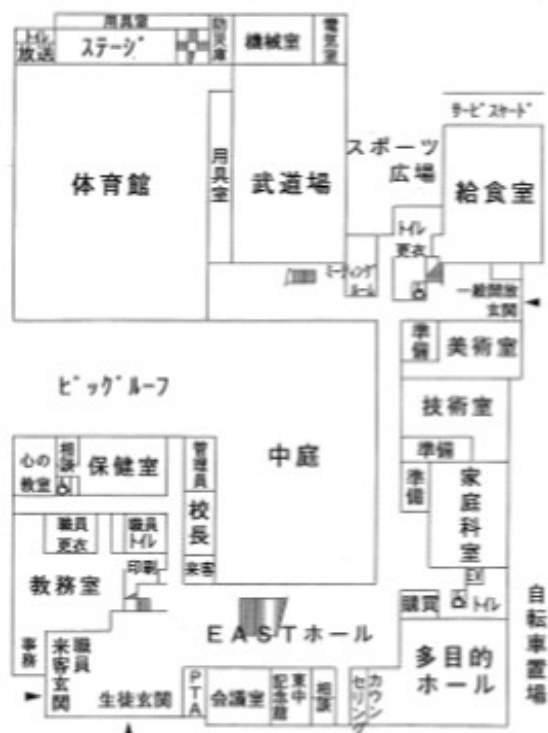
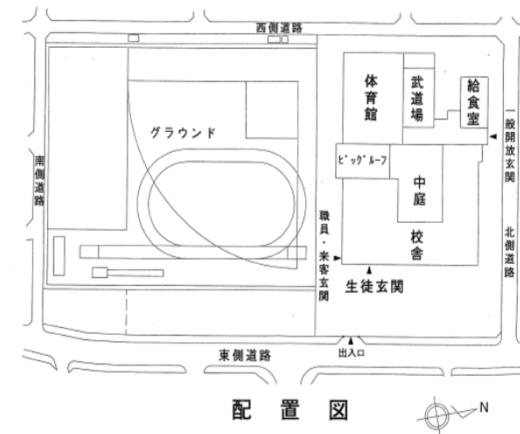
1 年	2 年	3 年	特別支援学級	計
4 学級 1 2 3 名	4 学級 1 0 8 名	4 学級 1 3 5 名	2 学級 8 名	1 4 学級 3 7 4 名

学校教育目標

考える東中 いたわる東中 やりとげる東中

施設概要

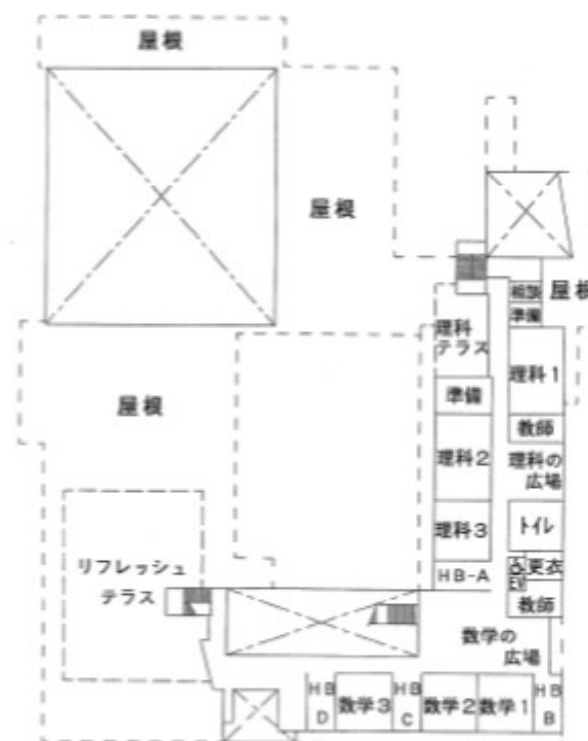
平成20年築
RC造（一部S造） 地上3階建
延べ10,959㎡



1F



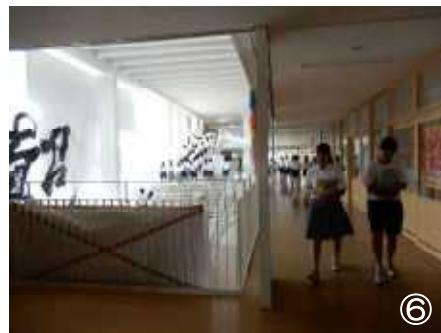
2F



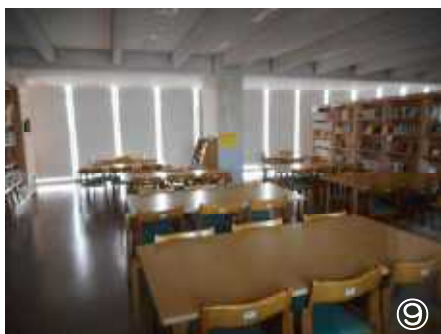
3F



▲教室（2～3）と各教科の広場、ホームベースを1単位として、教科ごとにゾーン分けされている。各教科ゾーンは、それぞれ各学年のゾーンも兼ねており、用途や目的に合わせて様々な使用が可能となっている。



▲教科教室型のため、各授業間には大移動が行われる。生徒達はその日のカリキュラムに応じて持って歩く教具等を考え、移動距離も考慮しながら自主的に移動を行っている。



▲メディアセンターを構成する図書室とコンピュータ室。

▲余裕を持たせた保健室。ビッグルーフを介して体育館と接する。

▲教師・教材コーナー。各教科ゾーンに設置。



▲体育館。避難所としてメインの居住スペースとなる。武道場と合わせて1,000人の収容が可能。



▲武道場は畳敷きで簡易暖房もあることから、主として高齢者の避難スペースを想定。



▲2室に分割できる和室。普段は文化に親しむ場として、非常時には避難所の個別空間（授乳室等）として機能。



▲屋根付広場の「ビッグルーフ」。半屋外空間として雨天時等の運動の場として、非常時には荷受等の多目的スペースとして機能。



▲体育館ギャラリー部分はランニングコースとして使用可能。



▲多目的トイレ。



▲非常電源切替盤。



▲普段は都市ガスを使用しているが、非常時にはプロパンガスを使用できるように、ガス変換機の接続口を配備。



▲備蓄スペース。最小限にしている。



▲体育館に隣接して設置された受水槽。非常時には、タンクから直接採水することができる。



委員コメント（計画面）

- ・ 門や塀を作らず、地域に開かれた学校となっている。学校と地域の良い関係性を見ることができた。
 - ・ 冬には風の強い地域であることから、校庭には防砂ネットを設けている。
 - ・ 植栽やサインなども配慮され、校地全周にわたってデザイン的に配慮されている。
 - ・ 体育館・柔剣道場は、細部まで防災に配慮されている。（防災備蓄・熱源確保等）
 - ・ 避難施設として段階的に開放可能なゾーニング。半外部空間は、防災への配慮と共に、冬季間の運動スペースとしての利用可能。
 - ・ 1階に特別教室をまとめているため、地域開放も段階的に可能となっている。展示のコーナーを持ち廊下からの見える化も配慮されている。
 - ・ 1階から3階へ続く吹き抜けは、生徒の交流が見える空間となっている。また、教科教室型での教室間の移動を容易にしている。
 - ・ 多目的ホールはランチルームとして、また様々な利用に配慮されている。
 - ・ 教科の広場での掲示や展示スペースが十分にあり、教科に設けられた教師センターとの連携にも配慮された配置である。
 - ・ HBのスペースは1/2教室分であるが、割り当て教室を隣に設けることで広さを補うと共に帰属感の生まれる配置となっている。教室は、掲示を教科の広場で行うことで、教科の教室としての雰囲気と割り当て教室(HR)としての雰囲気を上手く両立している。
 - ・ 木質感のあるデザインであるが、材料の色・素材・材の太さやなどを空間の特性によって変え、単調ではない、「その場を高める」デザインとなっている。
-
- ・ 計画の最中に中越地震が発生したため、防災拠点としての機能を高度に備えた計画がなされており、避難場所として備蓄倉庫のほか、水、ガス等の供給についても対策がとられており、全国でもモデル的な学校施設といえる。外部と体育館アリーナの関係、学校専用空間と地域住民利用空間のゾーニングも明確で優れている。
 - ・ 校舎は、いわゆる「教科センター方式」の典型的なつくりであり、教科教室に接続したホームベース、教科メディアスペース、教師コーナーを備えた空間構成は、教科指導の充実という点で大きな効果が期待できる。また、予備の教室も配置されており、多少の学級増にも対応できる柔軟性がある。
 - ・ ガラスが多く、回遊性があり、教室移動によって変化に富む校舎空間は、極めて快適であり、明るさ、すがすがしさを感じるデザインとなっていて評価できる。
 - ・ しかし一方で、プランがやや複雑であるがゆえ死角が多く、施設管理上は不利な点があるようにも感じた。
 - ・ 1階ホール中央の階段は手すり壁部分が透明で、蹴上げの箇所が抜けたつくりになっており、非常に軽快であり、美術館を思わせるデザイン的には気持ちの良い設計となっている。しかし一方、視認性や安全性で生徒が不安に感じる可能性も考えられる。
 - ・ 特別な支援が必要な生徒が増える中、常に教室移動を必要とする教科教室型の運営について議論が必要だと感じた。

委員コメント（計画面）

- ・教科教室型校舎となっており、各教科3教室程度の専用室を有している。生徒は、ホームベースにロッカーがあり、ホームルーム等は指定の教科教室を兼用する。時間割等についても、ホームルーム等は同一時間帯にする等の工夫がされている。
 - ・建て直し時に、校舎の位置を端に寄せることによって、広く機能的なグラウンドの使用が可能になった。
 - ・南向きにこだわらず、廊下と教科の広場、教室を一体化させた設計になっている。ホールにある吹き抜けと階段が、立体感および開放感を出している。
 - ・グラウンド、体育館、校舎をそれぞれのエリアとして、冬期降雪時の運動場の確保とともに、災害発生時に避難が長期化しても学校での教育活動が維持できるように配慮されている。
-
- ・ 広々とした敷地にゆったりとした校舎が建てられている。
 - ・ 教科教室制で各教科の教員は環境を整えることが容易であり、掲示等も充実している。
 - ・ 特別支援学級の教室が確保されていなかったことと、オープン教室で落ち着かない生徒もいると思うが、落ち着けるスペースの確保があるとよいのではないか。

委員コメント（運営面）

- 各教科の広場に生徒が参加する「運営委員」を設けており、教科のメディアセンターとして上手く運営されている。
- 生徒が大変落ち着いており、時間割に合わせて混乱もなく移動している様子から、自主的に行動する生徒の状況をうかがうことができた。また、ホームベースは学級の掲示が充実し、しかも整頓されているので、ホームベースの運営と指導が充実していると考えられる。
- 教師コーナーの一部に、うまく活用されず物が積まれていた箇所が見られた。
- 教科教室型ゆえか各教室の掲示物が少なく、やや殺風景に感じた。
- 教育の場としての学校だけでなく、防災機能の充実を図るための工夫がされている。具体的には、体育館入り口のスロープ、洋式便器、テレビ及び電話配線、受水槽への非常用蛇口、ガス変換器、防災用品の備蓄等である。
- 教科の広場については、掲示物等により学習意欲を高める工夫を行っている反面、廊下と一体化している分学習活動の場としてのまとまりに課題があるように思えた。
- 学校の敷地の境界に塀等がなくオープンな感じで、表示等も含め避難所として機能が地域に理解されている。
- 教科教室であり、生徒は休み時間に移動することになるが、移動もスムーズに行われていた。各学年3学級という規模でこのような運用で可能であるとの話であった。
- 学校教育と避難所機能が同時に果たせるよう区域を区切って運用でき仕組みになっている。
- オープン教室で道具等は教室内ではなく整理されている。

委員コメント（その他）

- 建築計画者の参画が計画内容の深度を深め、意識の高い教員の運営がそれを生かしていると感じた。
- 教師の働き方改革が求められている中、無理のない勤務で十分機能する学校施設の在り方を探る視点も重要。
- 生徒は2時間分の道具をもって移動し、長い休み時間の時のみ、ホームベースに立ち寄る。
- 特別支援学級があるが、教室の確保でされておらず、多くが交流及び共同学習で通常の学級と一緒に学んでいると聞いたが、教科教室型は特別支援学級の生徒にとってわかりにくいし、安定して学習するという環境とは言い難い。

5 富山市立豊田小学校（富山県富山市）



学級編制 （2018年4月現在）

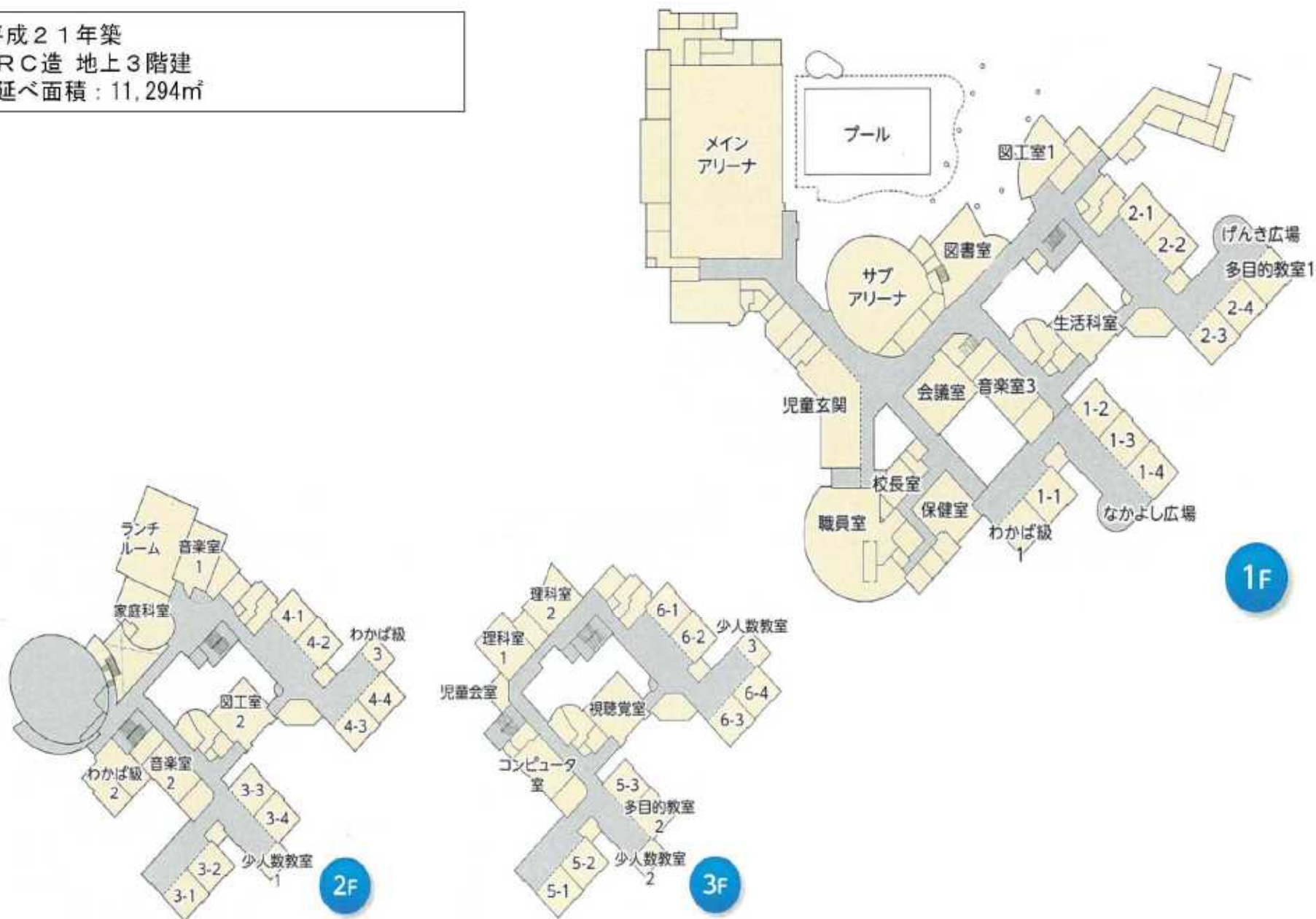
1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特別支援	計
4 学級 1 3 6 名	4 学級 1 1 5 名	4 学級 1 3 2 名	4 学級 1 2 6 名	3 学級 1 1 5 名	4 学級 1 2 5 名	3 学級 1 4 名	2 6 学級 7 6 3 名

学校教育目標

自ら学び 心豊かに たくましく生きる 子供の育成

施設概要

平成21年築
RC造 地上3階建
延べ面積：11,294㎡





▲昇降口の脇に配置された職員室。全体が外に面しているため、明るく広々とした空間。



▲職員室内には機材や教材を収納するためのスペースが十分にとられている。



▲職員室内にあるラウンジ。キッチンも設置されているため、リラックスした雰囲気でお話ができる。



▲普通教室に隣接した教員スペース。



▲普通教室。扉はなく、大きくワークスペースに向かって開かれている。



▲低学年の教室群に付随する広場。ワークスペースよりも家庭的な雰囲気でも多目的に利用可能。



▲メインアリーナ。放課後や休日には学校開放を行っている。



▲サブアリーナ。クラス単位や学年単位の活動などに使用。



▲広々とした図工室。



▲図書室。吹き抜けで、階段により2階までつながっている。



▲生活科室。多目的ルームのような利用をされている。



▲構内に点在する展示スペース。児童の作品などを展示。



▲理科室。



▲ランチルーム。隣接する家庭科室
音楽室と一体的に使用可能。



▲家庭科室。



▲音楽室。



▲わかば教室（特別支援教室）内の
キッチン。自宅のような空間を設け
ている。



▲わかば教室（特別支援教室）。



▲デン。



▲ビオトープ。

委員コメント（計画面）

- 建物の外観や内装に曲線を多く取り入れ、柔らかみを感じさせる構造である。
 - 消火器やゴミ箱、掃除用具の洗い場などが壁面や木枠に収納されていて、見た目が美しい。
 - 窓が多く、採光が最大限考慮され、廊下等も広々しており、校舎内全体が明るい雰囲気である。
 - 職員室が広く明るい。また、家具がセットされたミーティングスペースが確保されており、教職員が働きやすい環境だと思う。
 - 相談室や「でん」など、一人一人の児童に寄り添った指導がしやすい環境である。
 - 円形部分や直線でない角度の部分が各所に取り入れられているので、場所によっては据え置きでない棚などの家具が置きにくくなるかもしれない。
 - 図書室は吹き抜けがあつて雰囲気はよいが、学習センターとしての機能や蔵書数の確保・増加という観点からは、むしろ2階のフロアがある方がよいともいえる。
-
- 大規模校であるが、全体的にスペースに余裕があり、開放的である。
 - 天井が高いが採光の工夫がなされ、窓も大きいことから全体的に明るい印象がある。
 - 非常勤を含め50人以上の教職員がおり、職員室も大きいのが、収納や配置の工夫がなされ、作業できるスペースや、ミーティングやリラクゼーションできるエリアが複数あり、多様な校務を行うことが可能となっている。
 - 保健室も同様にスペースに余裕があり、相談室も3部屋ある。
 - 教室スペースは、横はオープンスペースとつながり余裕があるが、縦は余裕がない。
 - 掃除用具入れ、ゴミ箱がセットになった家具や暖房機器を覆う棚が各教室に固定して設置されており、教室内はすっきりしている。
 - 校舎には曲線部分が多くあるが、そこにも収納家具等が備え付けられており、空間が有効に利用されている。
 - ランチルームをはさんで、音楽室、家庭科室を配置することにより、ランチルームを多目的に活用できるようにしている。
 - ICT機器は移動式であり、配線等含め、改善の余地がある。
 - 各学年の教師コーナーは、固定された家具等で区切られた空間になっているが、積極的に活用しているようには見えなかった。隣接するガラス張りのミーティングルームも収納として使われていた。

委員コメント（運営面）

- 校内各部屋相互及び校舎の中と外がいろいろな箇所につながっており、機能性が高い。
 - 「生活科室」が設置されている学校はきわめて珍しいのではないかと期待できる。有効に活用できるとよいと思う。
 - 昇降口は地域のニーズに合わせ、長靴が入る高さの下駄箱があるのが印象的だが、靴のロッカー同士がやや近すぎて、下校時刻が重なった日などは付近が混雑するのではないかとと思う。
 - 1階に出入り口が多く、また掃き出し部分も多いことから、風通しはよいとは言うものの戸締まりなどには時間がかかり、施錠忘れ等に注意を要するだろう。
 - 蛇口の設置場所には必ず鏡があり、歯磨きや顔の汚れの確認など、児童の衛生面での指導に有効である。
 - 少人数教室の稼働率は高いと言うが、仕切りがあるともう少し集中できる環境になる。
 - 窓枠、棧、棚、入り組んだ部分などホコリがたまりやすい箇所が多く、清掃が大変だろうと予想する。
-
- PTAや地域開放のための入口が複数あり、中庭、給食センター等へのアクセスも可能となっているため、施錠等管理に手間がかかる。

委員コメント（その他）

- 広い敷地が有効活用され、児童がのびのびとした学校生活を送ることができていると思った。
- 職員室の余裕ある空間と用途別のスペースの配置は特筆できる。

6 坂井市立丸岡南中学校 (福井県坂井市)



学級編成 (平成30年9月現在)

1 年	2 年	3 年	アンデルセン ピアトリクス (特支学級)	計
4 学級 115 名	4 学級 124 名	5 学級 148 名	2 学級 (5 名)	15 学級 387 名

校長	教頭	教諭	養護教諭	事務員	講師	司書	A L T
1 名	1 名	24 名	1 名	1 名	1 名	1 名	1 名

習熟度非常勤	相談員	支援員	S C	部活動講師	校務支援員	校務員
1 名	1 名	2 名	1 名	1 名	1 名	2 名

学校教育目標

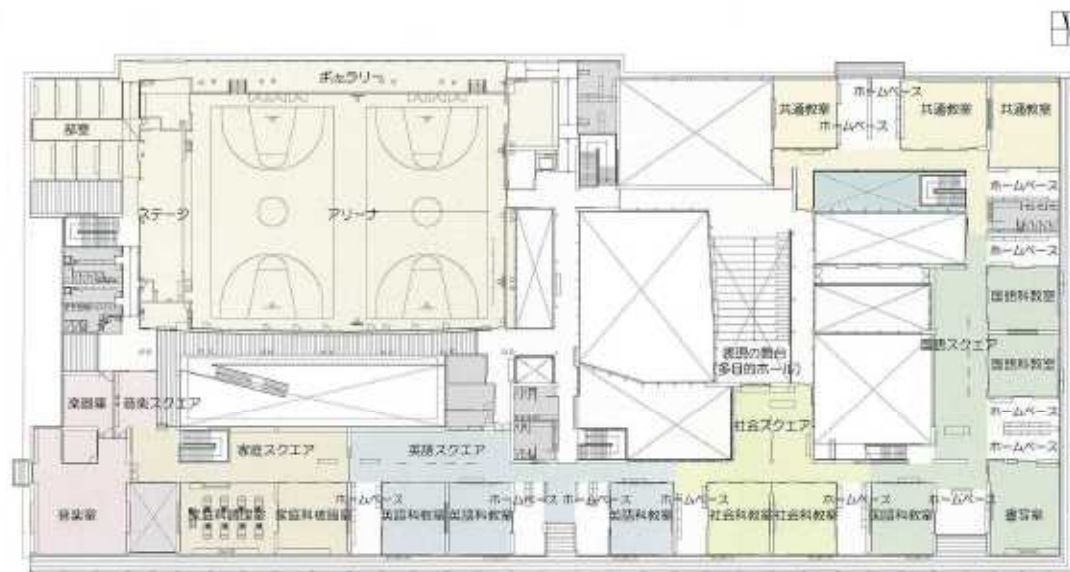
信頼を重んじ、感謝と自主・自律の精神を育てる

施設概要

平成18年築

RC造（一部S造） 地上2階建

延べ10,070m²



2階平面図



1階平面図

配置図





▲昇降口。靴箱はヘルメットの収納が可能な作り。



▲数学科教室。黒板としても利用可能な可動式の扉を設置。



▲理科講義室。



▲理科実験室。壁部分は実験器具などを展示できるようになっている。



▲国語科教室。



▲各教科教室の脇にメディアセンターと呼ばれる教員のためのスペースを設置。担当教員によって様々な空間づくりがなされている。



▲メディアセンターには学習スペースが設けられることもあり、授業時間外に生徒の質問を受ける場所としても利用されている。



▲英語科のメディアセンター。



▲ホームベース。



▲メディアライブラリー。



▲ランチルーム。全校生徒・全教員が集まって昼食をとっている。



▲表現の舞台（多目的ホール）。大階段が2階へとつながる。



▲美術室。天井が高く、大きな作品も搬入可能。



▲美術室の向かいにある技術室。



▲音楽室。



▲アリーナ。自然通風により、夏でも良好な環境となっている。



▲職員室。



▲職員室内にある教員用のサロン。飲食はサロン内で行っている。



▲2階のテラス。庇があることで積雪時も雪が入り込まない。



▲外の教室。課外活動の集合場所としても利用。



▲鳥のパティオ。



▲風のパティオ。



▲校庭。



▲1階ピロティ部分の駐輪場。

委員コメント（計画面）

- 周囲は田畑に囲まれており、斬新なデザインがひととき目立つ。校地に防球フェンス以外の塀はなく、用水路もあり地域との連携を意識した外構になっている。
- 校舎内に大きな駐輪場があり、技術・美術室、武道場等とともに1階では独立した位置にある。技術・美術室の扉は高く、作品等の搬出入が容易になっている。
- ランチルームがあり、給食は全生徒と教職員が集まって食べる。ランチルームや多目的ホールのみならず吹き抜け空間や中庭が配置されており、開放感とともに1階への採光の役割も果たしている。
- 直線100m超のベランダや階段部の間接照明、窓やガラスを多用した教室等、デザイン面でも随所に独自性が見られる。

委員コメント（運営面）

- 図書室が昇降口の近くにあり、朝読書に読む選書や室内の掲示も含めて、生徒が図書に触れやすい環境を作っている。
- 教科教室型校舎となっており、各教科2～3教室程度の専用室を有している。生徒は、ホームベースにロッカーがあり、ホームルーム等は指定の教科教室を兼用する。その際、意図的に異学年が隣同士となる配置としており、教員も複数学年を縦持ちする（縦持ちは、福井県では一般的とのこと）。
- 教科センターでは、休み時間や空き時間等教師がいることが多く、生徒との交流を深めている。廊下を挟んで教科教室と対置されている分、細長い形状であり、学習空間としてはややまとまりに欠ける。

委員コメント（その他）

- 各教室には人名が付けられ、教師および生徒の愛称となっている。